

会社概要

会社名	日野自動車株式会社
事業内容	トラック・バス、小型商用車・乗用車(トヨタ自動車(株)よりの受託車)、各種エンジン、補給部品等の製造
本社所在地	東京都日野市日野台3丁目1番地1
創業	1910年(明治43年)8月1日
設立	1942年(昭和17年)5月1日
資本金	72,717百万円 ^{*1}

*1 2020年3月31日時点(連結)

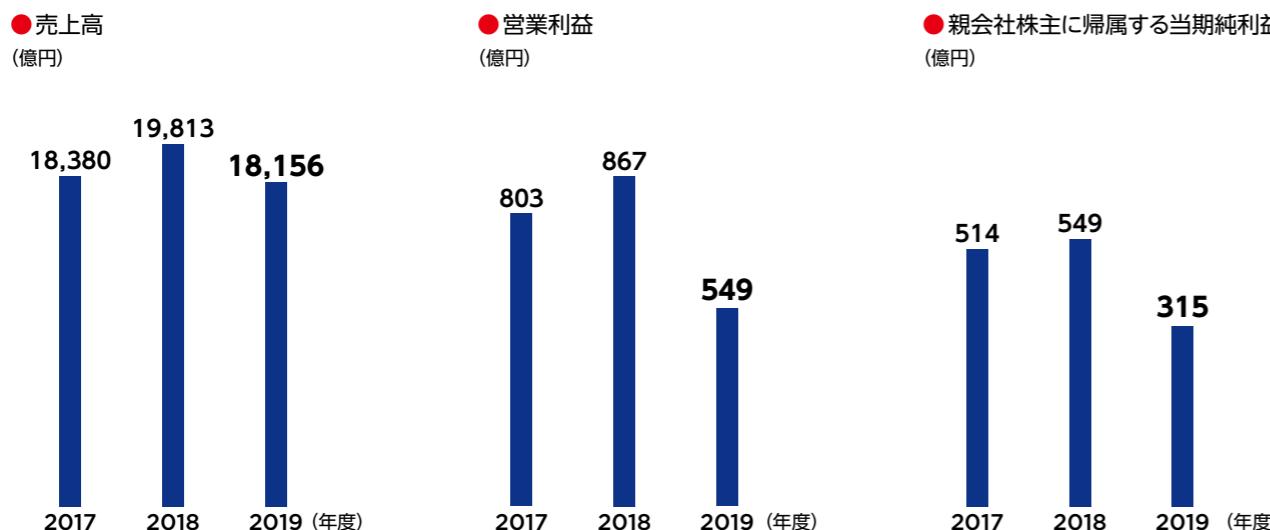
*2 2019年度(連結)

従業員数 ^{*1}	34,548人
売上高 ^{*2}	18,156億円
営業利益 ^{*2}	549億円
親会社株主に帰属する当期純利益 ^{*2}	315億円

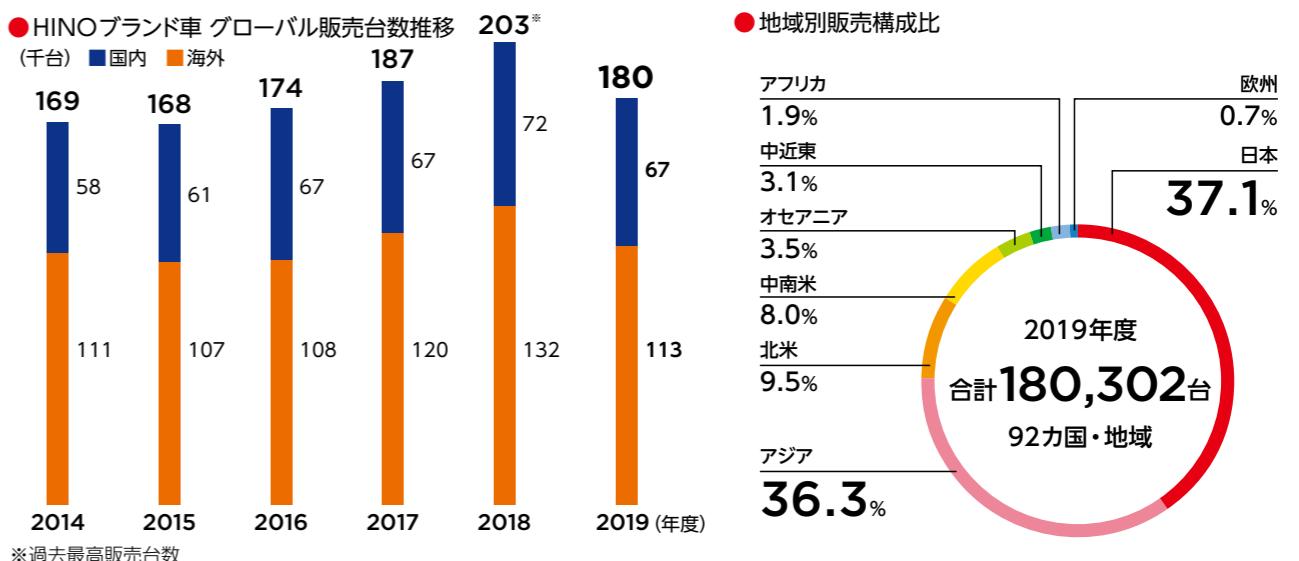
海外事業体(投資会社) 2020年7月現在



業績の推移



グローバル販売台数推移／地域別販売構成比



CONTENTS

- | | | | | |
|--------------|----------------------------|------------------------------|--------------------|--------------------|
| 4. 日野自動車のあゆみ | 10. サステナブルな社会の実現に向けて | 22. SDGsと日野の戦略・取り組み | 35. ESGの取り組み | 119. ESGデータ集・その他 |
| 6. トップメッセージ | 10. 日野自動車の価値創造 | 32. CSRマネジメント | 36. Environment 環境 | 119. ESGデータ集 |
| 8. HINO基本理念 | 12. 中長期経営戦略「Challenge2025」 | 34. TOPIC | 37. 日野環境チャレンジ2050 | 120. GRIスタンダード内容索引 |
| | 15. 3つの方向性 | 新型コロナウイルス感染症への
「チーム日野」の対応 | 68. 主要パフォーマンスデータ | 134. ISO26000対照表 |
| | ・安全・環境技術を追求した最適商品 | | 69. 環境マネジメント | 135. 編集方針 |
| | ・最高にカスタマイズされたトータルサポート | | 75. マテリアルバランス | |
| | ・新たな領域へのチャレンジ | | 91. 人権の尊重 | |
| | | | 92. 人づくり・働き方 | |
| | | | 105. サプライチェーン | |
| | | | 107. 社会貢献活動 | |

HISTORY of Hino Motors

日野自動車のあゆみ

1917年に日本人の設計による初の純国産トラックの試作に成功して以来、人と物の移動を技術で支えてきました。戦後はディーゼルエンジンを搭載したトレーラートラックで日本の復興を支え、高度成長期には大量輸送を担うトラックやバスを開発。近年では、AI・IoTなどの最新技術を駆使して、人と物の移動にまつわる社会課題に挑んでいます。いま100年に一度といわれる大変革の時代、日野自動車の新たな挑戦がはじまっています。



● TGE-A型トラック(1917年)
日本初の純国産トラックで、日野自動車の原点となる。



● 日野コンテッサ1300デラックス(1964年)
第11回東京モーターショーに出展した世界戦略車「コンテッサ1300デラックス」。性能の高さとデザイン性に世界から絶賛の声が集まつた。



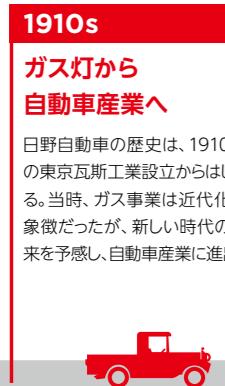
● HIMR(1989年)
第28回東京モーターショーでお披露目した世界初のハイブリッドバス。1991年に市販開始となった。



● 日野スーパードルフィン(ドルフィンターボ8.8)(1981年)
世界初のダウンサイ징エンジン、世界初のカーブ・インペラー・ターボコンプレッサーなど、新しいアイデアと技術が満載のパワフルな低公害車の誕生。

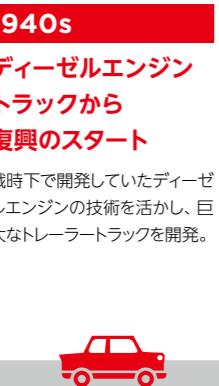


● T10-20型
トレーラートラック
(1946年)
純国産の大型トラックは、敗戦で自信を失った国民を勇気づけた。



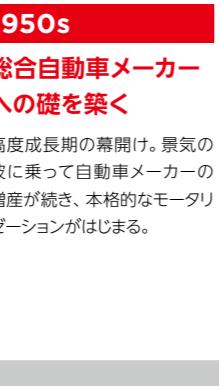
ガス灯から自動車産業へ

日野自動車の歴史は、1910年の東京瓦斯工業設立からはじまる。当時、ガス事業は近代化の象徴だったが、新しい時代の到来を予感し、自動車産業に進出。



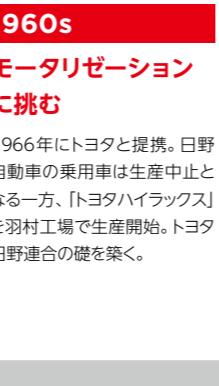
ディーゼルエンジントラックから復興のスタート

戦時下で開発していたディーゼルエンジンの技術を活かし、巨大なトレーラートラックを開発。



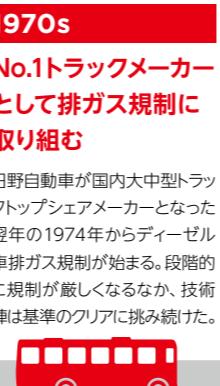
総合自動車メーカーへの礎を築く

高度成長期の幕開け。景気の波に乗って自動車メーカーの増産が続き、本格的なモータリゼーションがはじまる。



No.1トラックメーカーとして排ガス規制に取り組む

1966年にトヨタと提携。日野自動車の乗用車は生産中止となる一方、「トヨタハイラックス」を羽村工場で生産開始。トヨタ日野連合の礎を築く。



1980s: 日野が環境技術をリードする時代へ

自動車メーカー各社がさまざまな技術を競合した1980年代。日野自動車の技術陣も独自の環境技術をさわめ、その後のハイブリッド時代の先駆をつけた。

● HINO600
北米市場で主流のポンネットタイプを北米専用車として開発。のちに全米トラックディーラー協会の2011年トラック・オブ・ザ・イヤー(中型部門)を受賞。



● 日野デュトロ ハイブリッド
2003年に発売。「ヒノノニン」の愛称で親しまれている小型トラック「デュトロ」に、環境問題の深刻化を見据えハイブリッドシステムを搭載。日野自動車のハイブリッド車のイメージリーダー的存在。



● 日野レンジャー
2017年、16年ぶりにフルモデルチェンジ。2018年には安全性能や燃費性能の向上に加えて快適性能を追求してマイナーチェンジ。



● 日野プロフィア ハイブリッド
2019年新発売。AIを活用した世界初のハイブリッドシステムを搭載し、ディーゼル車の基本性能をそのままに、環境負荷低減やドライバーの疲労軽減にも貢献。



● 日野ポンチョ
コミュニティーバスに最適な乗り降りしやすい低床と広いフルフラットスペースが特長で、2006年のグッドデザイン賞を受賞した。



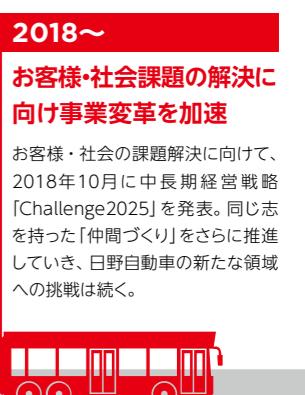
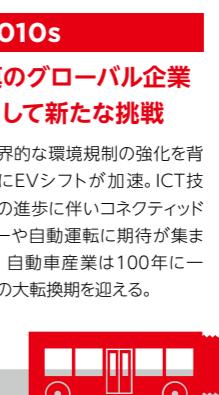
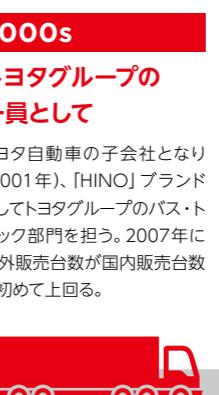
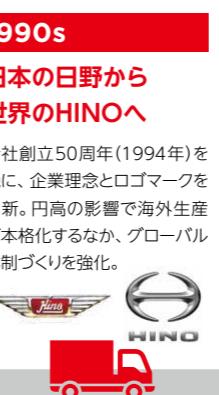
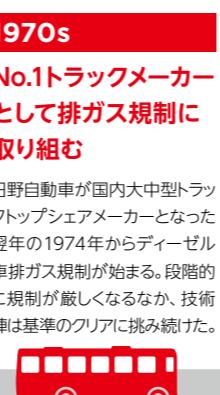
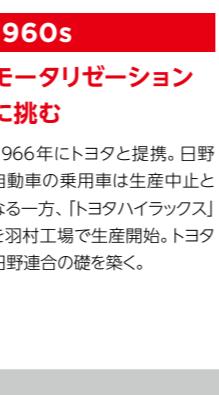
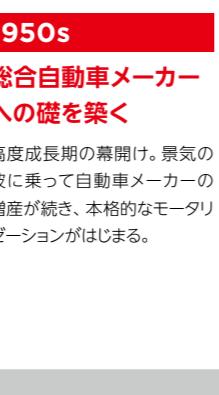
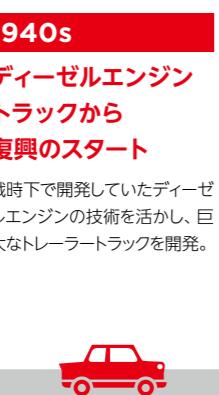
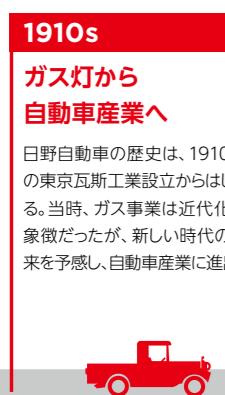
● 日野セレガ
トラック・バス世界初となる「ドライバー異常時対応システム(EDSS)」を標準装備した次世代型の大型観光バス。2019年には、最新AI技術の機能を追加しマイナーチェンジ。



● 日野ブルーリボン ハイブリッド 連節バス
環境問題や運輸業界のドライバー不足といった社会課題解決のため、いすゞ自動車と国産初のハイブリッド連節バスを共同開発。路線バスでは世界初のEDSSとなる標準装備、大量輸送と高い安全性を両立。



● 日野ブルーリボン ハイブリッド 連節バス
環境問題や運輸業界のドライバー不足といった社会課題解決のため、いすゞ自動車と国産初のハイブリッド連節バスを共同開発。路線バスでは世界初のEDSSとなる標準装備、大量輸送と高い安全性を両立。



1914	1923	1929	1939	1945	1947	1947	1954	1958	1963	1964	1969	1970	1972
第一次世界大戦勃発	関東大震災	世界恐慌	第二次世界大戦勃発	終戦	湯川秀樹ノーベル物理学賞受賞	日本国憲法施行	第一回全日本自動車ショウ	東京タワー開業	名神高速道路、日本初の高速道路、生	東京オリンピック	東名高速道路開通	大阪万博	沖縄返還

● 日野重工業株式会社として分社・設立
写真は太平洋戦争末期の日野工場。



● ルノーとの提携
ルノーとの技術提携を結び、ルノー4CV(小型乗用車)を生産(1953年~1961年)。



● 初の海外進出
1962年、タイにて海外初の販売代理店「Victory Automobiles Co.,Ltd.」誕生。その後、1964年に初の海外製造会社「タイ日野工業(THI)」を設立。日野の海外進出の第一歩となつた。



● トヨタとの提携
トヨタ自動車工業(株)・トヨタ自動車販売(株)(現、トヨタ自動車(株))と業務提携を締結。

1985	1986	1991	1993	1995	1997	2001	2005	2008
プラザ合意	男女平等法施行	バブル経済の崩壊	EJ誕生	阪神・淡路大震災	京都議定書採択	アメリカ同時多発テロ	愛知万博開催	リーマンショック



● ダカールラリー
1991年にダカールラリー初参戦。1997年には総合1位、2位、3位を独占し、過酷な環境にも力を発揮する日野自動車の実力を世界に見せつけた。2020年で連続29回出場。



● 古河工場
グローバル生産体制の構築を狙い国内工場を再編し、最大規模・最新鋭の工場となった。大中型車両生産のマザー工場として2017年より本格稼働。



● フォルクスワーゲン トランク &バスとの提携
VOLKSWAGEN TRUCK & BUS(現TRATON GROUP)と戦略的協力関係の構築に向け合意。



● TRATONと電動化領域の協業
TRATON GROUPと商用車メーカーならではの強みを掛けあわせ、電動車の一括企画を行ふ。地球温暖化防止に貢献する電動車のリードタイムの短縮を目指す。